

2023 年度 群馬パース大学 看護実践教育センター 自己点検・評価

【課程名】看護実践教育センター 認定看護師教育課程（摂食嚥下障害看護）

評価項目	自己点検・評価
教育課程	<p>認定看護師教育課程の研修内容は、日本看護協会により策定された基準カリキュラムに基づき設計される。本教育課程においても当該基準カリキュラムを遵守の上、本学建学の精神である「Paz（平和）平和で公正な社会の発展、Pessoa（個性）個人の尊厳と自己実現、Assistencia（互助）多様な人々の共存と協調、Zero（熱意）知の創造、への貢献」を達成すべく、開講期間 2023 年 4 月から 2024 年 3 月の 12 か月（うち、4 月から 8 月は e-learning）、共通科目 388 時間、専門科目 254 時間、演習・実習 165 時間の計 807 時間の教育課程を設計し、2023 年度をとおして計画通り実施した。教育課程の運営には、認定看護師として 10 年以上の経験をもつ専任教員 2 名および事務職員 1 名が従事した。</p> <p>教育課程の進行を補完するため、特に専門科目における知識の習得に難渋する学生には個別の学習支援を行っている。また、専門科目修了後は臨地実習に向けて準備期間を設け、看護技術の向上のための実践教材の提供、演習室の開放および個別指導を行っている。</p> <p>臨地実習期間中は毎週教員が実習施設を訪れ、受講生との面談、臨地実習指導者と到達度の確認等を行い、実習の進捗を管理している。臨地実習後は学内に戻り、経験した事例を用いて事例検討会、実習報告会を行うことで知識技術の定着を図っている。</p> <p>教育課程の質を担保するため、対面授業開始後は授業回毎に受講生へ授業評価アンケートの記載を依頼し、そこから得られた意見や要望、質問項目を吸い上げ、それ以降の講義に迅速にフィードバックできるシステムを構築しており、2023 年度においてもこのシステムを通じて必要な改善を行った。</p> <p>当該年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 21 名にアンケート（5 件法・「1：そう思わない」、「2：どちらかといえばそう思わない」、「3：どちらでもない」、「4：どちらかといえばそう思う」、「5：そう思う。」以下、同様。）を実施したところ、各授業に対する満足度について下記の結果が得られた。</p> <p>【以下の各授業は、学びを得るために役立ちましたか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①共通科目講義：平均 4.86（±0.35） ②専門科目講義：平均 4.95（±0.21） ③技術演習：平均 4.95（±0.21） ③臨地実習前事例検討グループワーク：平均 4.81（±0.39） ⑤臨地実習：平均 4.90（±0.29） ⑥事例検討会：平均 4.76（±0.53） ⑦実習報告会：平均 4.81（±0.39） ⑧ケースレポート作成：平均 4.90（±0.29） <p>【本学での授業や活動を通して、自己研鑽できたと感じていますか】</p> <p style="padding-left: 2em;">平均 4.67（±0.47）</p> <p>平均値はいずれも 4 以上を示しており、各講義は受講生の満足に繋がったものと評価できる。</p>

評価項目	自己点検・評価
	これらのことから教育課程は適切に計画、実施されたものと評価できる。
教育成果	<p>2023 年度受講者 23 名のうち 21 名が修了した。休学者は 1 名、研修期間中の退学者は 1 名であった。</p> <p>当該年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 21 名にアンケート (5 件法) を実施したところ、学修成果について下記の結果が得られた。</p> <p>【以下の事項について、習得できたと思えますか】</p> <p>①摂食嚥下障害看護に関する専門的知識：平均 4.62 (±0.49)</p> <p>②摂食嚥下障害看護に関するアセスメント能力：平均 4.57 (±0.49)</p> <p>③摂食嚥下障害看護に関する看護技術：平均 4.57 (±0.49)</p> <p>認定看護師として必要となる専門知識、アセスメント能力、看護技術のいずれの項目についても、平均値は 4.5 を上回った。</p> <p>また、本教育課程は、日本看護協会 認定看護師認定審査において過去 3 年にわたり現役生 100%合格の成果を上げている。当該年度の認定看護師認定審査は 2024 年 10 月に予定されており、対策として在籍中の問題集自主作成等の学習支援、修了後フォローアップ研修 2 回を実施している。</p> <p>これらのことから授業計画は受講生の知識・技術の獲得に効果的な学修プロセスであり、一定の成果を挙げるものと評価できる。</p>
受講生支援	<p>本教育課程では、全講義日において教育課程専任教員によるオフィスアワーを設けており、放課後にも講義室を開放し、受講生が時間を取って教員に相談が出来る体制を整えている。また、専門科目開始までの e-learning 期間における受講生支援として、メールでの質問受付、遠隔会議システムを用いた個別指導、事例課題の添削指導などを実施している。さらに、基礎的な知識を習得の上で専門科目開始に備えられるように、受講生を対象とした自主参加による基礎学習会を 3 回開催している。</p> <p>臨地実習においては、県内施設以外で臨地実習を行う者に対し、寮などの住居情報を提供している。</p> <p>研修修了の 6 か月後に実施される認定看護師認定審査対策として、在籍中から問題集作成グループワークを企画・実施し、例年、受講生全員が参加している。さらに、修了後のフォローアップ研修を、同じく例年 2 回実施している。</p> <p>当該年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 21 名にアンケート (5 件法) を実施したところ、受講生支援に関連する質問に対して下記の結果が得られた。</p> <p>【本学で研修中の学生生活全般について、満足していますか】</p> <p>平均 4.29 (±0.55)</p> <p>これらのことから、本教育課程の受講生支援は一定の成果を挙げているものと評価できる。</p>

評価項目	自己点検・評価
施設設備	<p>本教育課程は、新幹線停車駅である高崎駅の隣駅から徒歩 10 分で通学でき、主要幹線道路にも至近の利便性が高い立地にある。本教育課程のフロアは学生が専用で使用できるスペースとなっており、講義室、演習室、各種模型などの教材、休憩用のテラスなどを備えている。徒歩 3 分に隣接する本学図書館、本屋等があり、大学生と同様の条件で利用できるなど、受講生の学修をサポートする体制が整っている。</p> <p>当該年度の全学事日程を終えた修了予定の受講生 21 名にアンケート（5 件法）を実施したところ、自由記載欄に「綺麗な施設を使用できて嬉しかった」「交通の便が良く、周囲に店舗が多くて生活するうえでも助かった」などの記載が複数みられた。</p> <p>これらのことから、本教育課程の施設設備に対する受講生の一定の評価が得られたものと評価できる。しかし、アンケートでは施設設備に特化した質問項目を準備していなかったため、今後は施設設備の充実に努めるとともに、受講生からのフィードバックを得られるよう、アンケート項目についても考慮していきたい。</p>
広報活動と受講生確保の状況	<p>本教育課程のリーフレットを制作し、全国の医療機関、関東近県訪問看護ステーション、関東近県老人保健施設、北海道・東北・関東甲信越の看護協会に送付している（約 1780 施設）。また、臨地実習施設や修了生の勤務先およびその周辺地域の病院等を訪問して受講者募集を行っている。</p> <p>ホームページは、教育課程の概要、受講者選抜試験等の情報を整理し、閲覧しやすい環境を整備して公開している。さらに、より広い周知と本学のホームページへのアクセスを促進するため、社会人の学び等の情報を取り扱う外部サイト「マナパス」にも本教育課程の情報を掲載している。</p> <p>2024 年度は受講生が 21 名で定員の 84%にとどまった。今後の方策としてホームページの改良、リーフレット等の送付先および訪問先の見直しを行う予定である。</p>